

# 北アリゾナ博物館

米国フォー・コーナース地域には、先住民に対する友愛と敬意に満ちた活動を続けてきた私設博物館がある。文化展示、アート振興、資料保存における博物館と先住民との連携は、協働を声高に謳うことなく日常化している。

## コロラド高原地域の自然史と先住民文化の展示・研究施設

米国五〇州のなかで四州の境界線が一点で交わるのは、南西部のユタ、コロラド、ニューメキシコ、アリゾナだけである。「田舎町」をあらわす一般名詞「フォー・コーナース」は、これら四州の交差点や四州の総称として固有名詞で用いられることもある。その中心部はコロラド高原で、世界遺産グランドキャニオン、大隕石孔メテオ・クレーター、西部劇の舞台として有名なモニュメントバレーなどの国立・国定公園指定の自然遺産が散在する。

北アリゾナ博物館 (Museum of Northern Arizona、以下 MNA) は、フォー・コーナース地点の南西に位置するフラッグスタッフ市に一九二八年に開館した。おもな収蔵・展示品は、コロラド高原に生息する動植物や恐竜などの自然史関連の資料と、ホビやナバホやズニといった先住民関連の考古学資料と民族誌資料である。MNA は、世界中から観光客を呼び寄せる魅惑の地を紹介する文化施設であり、(古)生物学・考古学・文化人類学専門の常勤スタッフを有する研究機関でもある。

## 先住民アートの普及促進

開館当時の一九二〇年代、米国連邦政府は先住民に対して強権的な政策を続けていた。宗教・教育・土地所有などにおいて伝統的な先住民文化を解体させ、強制的な白人社会への同化がねらいだった。強制同化政策は一九三〇年代に自治・経済自立政策へと大転換する。新政策「インディアン・ニューディール」は、連邦政府の管理下での先住民政府樹立、成文憲法の制定、経済活動の支援などを主眼とした。たとえば米国内務省に新設した「インディアン美術工芸委員会 (IACB)」は、先住民アートの観光資源化の可能性に着眼し、「民族集団ブランド」の開発と促進を図った。

MNA は強制同化政策時代から先住民に対して人道主義・友愛主義を貫いてきた。たとえば美術工芸品制作の奨励やプロモーション活動で、ホビ製アートの展示即売会は開館五年目に開始した。そうした経験と貢献を評価した IACB は、ホビに独特の銀細工制作技法を考案するよう MNA に要請する。第二次世界大戦参戦にともない金属供給が滞ったため計画は頓挫したが、現在ホビ製銀細工と同義語的に使用される重ね合わせ技法はこのときに産声をあげた。その後のホビ銀細工産業の発展や資料収集と記録化において MNA の貢献は非常に高い。

展示即売会の歴史は現在まで続いている。販売スペースの提供だけではなく、講演、制作、調理実演、パフォーマンスなどに本館の展示場、講堂、中庭施設が開放される。ホビ・フェスティバルは毎年米国独立記念日の週末に開催され、二〇一三年には八〇回目を迎えた。世界でもっとも古くから継続する先住民の総合的文化普及イベントである。

## 新収蔵施設のオープン

二〇〇九年の夏至、MNA はイーストン・コレクション・センターの除幕式をおこなった。一九四〇年代末に建築した旧収蔵庫は、資料保存に関する問題が指摘されてきたためだ。敷地面積一六〇〇平方メートルの二階構造の新施設は、安全、清潔、環境への優しさを謳っている。遠くからでも目を引くのは、屋外の天井部に植物が生えていることだろう。防水加工を施した特殊パネルを敷き詰め、苔とコナッツ繊維と土壌でパネルを覆い、コロラド高原地域に生息する植物の種をまいて自生させている。「Living Roof」とよばれるこのシステムのコンセプトは自然との調和である。MNA、建築デザイナー、先住民の三者は数年間折衝を繰り返した。交渉団として組織された「先住民諮問委員会」は、自分たち先住民にとっての利便性と快適さや、彼らの伝統や信仰に対する配慮を要望した。たとえば、東に向いた入口、流線型のデザイン、自然界とのつながりが途切れない「生きた建造物」、地元産建材の使用、資料熟覧のための自然光採光設備、人骨や特定の儀礼具の非保管などである。

MNA の先住民への姿勢は、「これまでもこれからも一緒に文化を継承していくパートナー」という口バート・ブルーニグ現館長の言葉に端的にあらわれている。身近な存在の人びとから資料収集し、それらを展示・保存する研究機関が、過去・現在・未来において示してくれるこうした態度は、わたしたち世界の民族集団の資料を扱う民博の活動にも大いなる示唆を与えてくれると思われる。なお、MNA と民博とは二〇一三年度中に学術協定を結び予定である。



伊藤敦規  
民博研究戦略センター



イーストン・コレクション・センター



ミュージアム・ショップのポスター。先住民スタッフはモデルも務める



第 80 回ホビ・フェスティバルの様子。2013 年 7 月 (撮影・山崎幸治)



ホビの銀細工の歴史を紹介する展示



MNA 本館正門